平成19年度
駿台甲府高校同窓会報

発行
駿台甲府高校同窓会
事務局
〒400-0026
山梨県甲府市塩部
2-8-1
☎(055)253-6211

新同窓生の歓迎と同窓生の交流

同窓会長　寺井英仁

平成20年3月3日、春晴れの吉日に母校へ足を運ぶ機会がありました。第26回目の卒業式参列であります。これまで7，170名の卒業生を送り出した本校でありますが、本日326名の卒業生がめでたく同窓生となりました。

管弦楽団がリードするオープニングに続き厳粛な雰囲気の中、山崎理事長はじめ山口校長の挨拶がありました。『卒業後にも学校を頼るように』『厳しい時代を頑張って生き抜け』『本校を卒業する事への誇りを大切に』といった力強さの中にも温かなエールが送られました。山口校長曰く『卒業式は彼らにメッセージを送る最後のチャンスなのだ』とおっしゃっておられましたが、卒業生が皆真剣な眼差しで聞いている姿に私も心の中でエールを送る気持ちは重なりました。

在校生代表挨拶・卒業生代表挨拶には目頭が熱くなるとともに、背筋が伸びる内容が込められておりました。内容には高校生活の充実ぶりが溢れており、今の高校生の感受性の高さ、素直さに感激いたしました。一期生であった私の高校時代を振り返ると、男子校であったこともありますが、現在の充実した高校生活は羨ましくも感じるとともに、駿台甲府高校の歴史と発展を感じさせられました。

頼もしい同窓の後輩の誕生に同窓生の皆さん慶びを分かち合いましょう。これからも共々兄弟として『和』の気持ちをお願いいたします。

正直な話、卒業式での同窓会長挨拶はかみまくりました。（今年は挨拶文を書いて行ったのですが、一行飛ばしてしまいまして困ってしまいました。ホントは。）でも、心をこめた言葉はきっと卒業生に届いたと思います。卒業生には『社会貢献への奨め』を説きました。未来を見据えて勇気ある行動を興せる若者の姿は輝いています。

さて、我が校の現役生の活躍もさることながら、同窓生の姿も各地各界で認められてきております。そこで、昨年には同窓会のホームページのリニューアルに取り組みました。狙いは我々の同窓生同士が世代を超えてコラボレートすることであります。それにはまず、それぞれの同窓生の存在を確認できるデータ整備が必要となります。しかしながら、まだ7，170名の大部分にはその意義とホームページの存在が伝わりきっておりません。そこで、ご覧いただく皆さんにもお願いですが、同窓の仲間にホームページへの参加を促していただくようお願い申し上げます。

混沌とした時代ですが、健康に留意して一人一人が同窓生として誇りを掲げて輝けます様にお祈りいたします。

チャレンジ精神の確認

第七代校長　山口博伸

卒業生の皆さん、2008年が明けて早くもふた月が過ぎようとしていますが、お元気でご活躍のこととお慶び申し上げます。

私は、予備校本部で30年勤務した後、甲府に単身赴任して、まもなく満3ヵ年が経過しようとしています。年のせいもあるでしょうが、これほど時の移ろいを早く感じたことはありません。

三年間、疾走するが如くに手を尽くして、学園と生徒に良かれと思ったことは全て実現するか、着手をして参りました。おそらくこの3年間は、昭和55年に学校が創設される前後以上の動きだったと思います。それを極めて少人数の教職員を中心に推進して参りました。卒業生諸君には、母校の豹変振りに驚いておられることと思います。

やるべきことを延々と先延ばしする論議は、論ずるだけ無駄であります。初めからやる気がないのであれば、論ずる必要はないのです。この時代に求められていることは、「スピーディな試行錯誤」です。その為には、判断力と実行力が不可欠です。仕事というものは、常に前例のないことをやろうとするから難しいわけですが、マニュアル的な教育を受けてきた者たちには、苦手な範疇のようです。

もう一つ仕事を難しく感じる原因は、覚悟が定まっていないということでしょう。若いときから、退路を断って自分を追い込み、責任を被る訓練をして来ていないと、ちょっとした変化にも対応できないものです。すぐに怖気づいてしまうのです。私などは、40代初め頃から、懐にはいつも「退職願」を入れていたものです。辞めないでしがみ付く事ばかり考えていては、思い切った企画や上司や社会との勝負には出られないものです。もっとも私は、丁度そうした時期に吐血下血の苦い経験もしましたので、こういう時期は健康には最善の留意をしなければなりません。どうか一桁期生あたりの卒業生の皆さんには、十分にご自愛されるように。

さて山梨県は、経済を中心にして確実に沈滞ムードが漂っています。東京一極集中と地方崩壊という二極化は、本県でも確実に進行しているように感じています。様々な組織が色々論議し活動する小さな島は沢山ありますが、大きな渦のような運動にはならないのは、どうやら、甲州という国柄もあるようだと感じる昨今です。まずは周辺を眺めて、皆さんの様子を観察すると言った按配なのです。本当に危機なのに、危機感が感じられないほど、ゆったりと時間が回っていくのです。出る杭は打たれるというので、誰も運動の核にはなろうとはしないわけです。行政サイドも、無責任にも我関せず

とばかりの姿勢で、積極的支援も得られないというわけで、自然消滅してしまう活動が多いのです。

しかし嘆いてばかりでは何も変わらない、変わらなければ悪くなる一方。ということもあって、私は、今年は年度当初より、特に地域の活性化について学校がどのようにコミット出来るかということに、力点を置いて動いているところです。その辺のところは、至らないホームページですが、中高のものをご覧下さい。

「山梨県の活性化―人口１００万人をめざして」というタイトルは、駿中生と校長の研究室の研究メインテーマです。やはり、87万人台に落ちてきた本県の人口減少を、ここで何とか食い止めるにはどうしたらよいか、私の首都と甲州での生活経験と、若い中学生の頭脳をぶつけ合って思案しているところです。

去る2月10日には、中学の15周年記念事業のメイン行事として、成果を公表したところです。

学校という一見おとなしく、社会貢献の下手なところでも、やれることはやれるのだというのが私の一貫した主張でありますが、甲斐国ではそれを現に見せないと、世間は全く認知してくれません。しかし2週間に亘って、一私学が「山梨活性化」を叫び続けたお蔭で、地元紙に3本の記事となるほど、意義深い画期的な周年事業をやり遂げることができたのです。

学校というところは、生徒が主役であります。主役がいることで、そのペアレンツが必然的にその舞台に関わります。そして主役はいつも年度で交替し、古手は同窓生となります。そう考えれば、学校は大きな地域社会の中心舞台であると思うのです。大舞台は、皆で利活用しなければ大きな障害物にすぎません。と考えれば、私の仕事のメインのところは、「駿台甲府」という大舞台を、生徒はもとよりその家族、卒業生、地域の方々に大いに利用して活躍していただけるよう試行錯誤するプロデューサーなのであります。

「学校」は、社会貢献の交差点、フォーラム（広場）の役目を担っているのだということを、全国の教職員は、もっと自覚しなければならないのだと思うのです。特に公立学校については、これを率先すべきだと思うのですが、山梨県を見る限り全くその気はないようです。教員になって活躍している卒業生の皆さん、心して頑張りましょうね。

平成18年度同窓会費決算報告書　（平成18年４月１日～平成19年３月31日）

※収入合計金額　4,708,621円　※差引残高　1,493,245円
※支出合計金額　3,215,376円

※収入の部　〔単位：円〕

科目	予算額	決算額	増減	摘要
入会金収入	1,200,000	1,195,000	△5,000	239名×@5,000
寄付金収入	0	0	0	
購読料収入	0	3,500	3,500	名簿販売
利息収入	1,636	2,757	1,121	普通・定期預金利息
広告収入	0	0	0	
会費収入	0	0	0	
雑収入	0	0	0	
同窓会特別基金取崩	5,570,000	2,000,000	△3,570,000	
前年度繰越金	1,507,364	1,507,364	0	平成17年度繰越金
合計	8,279,000	4,708,621	△3,570,379	

※支出の部　〔単位：円〕

科目	予算額	決算額	増減	摘要
事業費	50,000	0	50,000	
通信運搬費	650,000	516,176	133,824	役員会案内・会報郵送他
印刷製本費	200,000	537,600	△337,600	会報・封筒印刷
旅費交通費	100,000	141,900	△41,900	役員会交通費補助
会議費	10,000	10,355	△355	役員会時飲み物他
雑費	50,000	3,675	46,325	住所ラベル
賃借費	0	0	0	
賃金	0	0	0	
特別会計基金	0	0	0	
企画広報費	5,000,000	5,670	4,994,330	卒業生データチェック
高校への寄付	2,000,000	2,000,000	0	校歌碑造立
渉外費	100,000	0	100,000	
予備費	119,000	0	119,000	
次年度繰越金	0	1,493,245	△1,493,245	
合計	8,279,000	4,708,621	3,570,379	

（特別合計）　〔単位：円〕

項目	金額	摘要
同窓会事業基金	7,570,000	定期預金

監査の結果、同窓会会計の計算書類について、適正に処理されているものと確認いたしました。

平成19年度同窓会予算　（平成19年４月１日～平成20年３月31日）

※収入の部　〔単位：円〕

科目	19年度予算額	18年度決算額	増減	摘要
入会金収入	2,860,000	1,195,000	1,665,000	286名×@10,000
寄付金収入	0	0	0	
購読料収入	0	3,500	△3,500	
利息収入	2,000	2,757	△757	普通・定期預金利息
広告収入	0	0	0	
会費収入	0	0	0	
雑収入	0	0	0	
同窓会特別基金取崩	3,570,000	2,000,000	1,570,000	
前年度繰越金	1,493,245	1,507,364	△14,119	平成18年度繰越金
合計	7,925,245	4,708,621	3,216,624	

※支出の部　〔単位：円〕

科目	19年度予算額	18年度決算額	増減	摘要
事業費	50,000	0	50,000	
通信運搬費	500,000	516,176	△16,176	役員会・総会案内郵送他
印刷製本費	400,000	537,600	△137,600	会報・封筒等作成
旅費交通費	150,000	141,900	8,100	役員会交通費補助
会議費	20,000	10,355	9,645	役員会湯茶
雑費	10,000	3,675	6,325	消耗品等
賃借費	0	0	0	
賃金	0	0	0	
特別会計基金	0	0	0	
企画広報費	4,310,000	5,670	4,304,330	ホームページ制作費
HP運営維持費	2,110,000	0	2,110,000	
高校への寄付	0	2,000,000	△2,000,000	
渉外費	50,000	0	50,000	慶弔
予備費	325,245	0	325,245	
次年度繰越金	0	1,493,245	△1,493,245	
合計	7,925,245	4,708,621	3,216,624	

（特別合計）　〔単位：円〕

項目	金額	摘要
同窓会事業基金	4,000,000	定期預金

新校舎のご紹介

平成19年、駿台甲府高校に新しい歴史の息吹が芽生えました。山口校長の「山梨活性化」の提言の下、駿台甲府高校もその存在意義を再確認し、ソフト・ハードの両面で大幅な改革が行われました。

駿台甲府高校は、昭和55年に創設されて以来、昭和59年に南館（現在の東館）が設置され、今回の改修・新設に至るまで、多くの卒業生を輩出してきました。同窓生の多くは本館（講堂）・北館・西館・南館の校舎で高校生活を送ってきたと思います。

今回は、ハードの部分として、25年以上同窓生を見守ってきた校舎に、これからの山梨・駿台甲府高校を見据えて大規模な改革が行われました。新しい校舎の内容を、少しではありますが同窓生の皆様にご紹介いたします。高校生活を懐かしみながら、新しい駿台甲府高校に触れていただけたらと思います。

校舎正面
甲府工業高校側から撮影した写真です。正門も移築され、見た目にも開放感ある校舎となっております。古き良きものを残しつつ、新しい駿台甲府高校の歴史がこの校舎とともに歩みだします。

教室
新設された本館の教室です。当然、黒板も机もピカピカです。机や壁に落書きがないのが寂しく感じる同窓生もいるでしょうが、新しい教室で高校生活を送れる羨ましさも感じます。

クラブハウス
以前は旧本館の裏にあった部室。新校舎建設のためにクラブハウスは一番先に取り壊されました。そして、新校舎建設で最も早く出来上がったのもこのクラブハウス。シャワー室も完備。照明もあり、ナイター練習も可能になりました。

本館５階小ホール
旧本館にあった講堂に替わり作られました。体育の授業で利用したり、卓球部・剣道部・演劇部などが活動場所として利用したりしています。晴れた日にここから見る富士山の眺めは最高です。

大ホール
本館５階の大ホール（別名を「山崎メモリアルホール」）です。収容人員が机・イスをいれた状態で315名。１学年がすっぽり入ります。ここで学年集会を行ったり、予備校の講師を招いた講習会を行ったりしています。また、視聴覚機器をフル装備。5.1ch サラウンドシステムまで備え、映画館を彷彿させます。

メディアエッジルーム
駿台予備学校の衛星放送授業「駿台サテネット21」が受講できます。現在、塩部キャンパス内では64ブース設置されていて、全国の駿台予備学校のどの校舎よりも多く設置されています。駿高の生徒は甲府にいながら予備校の授業も受けることができます。それも教材費（１科目５００円～１，０００円程度）のみで受講可能！

保健室
西館１階にあった保健室は、本館１階に移転しました。学校内の１番真ん中に位置しています。緊急時に校内のどこからでもすぐにアクセスできるようになっています。

茶室
以前、進路指導室があった西館４階を改装。畳と障子をいれた純和風な茶室に。茶道部の活動場所です。男子もかなり入部しています。

テニスコート
新本館横のスペースにテニスコート２面が設置されています。毎日テニス部・ソフトテニス部の生徒たちが練習に励んでいます。

西館４階視聴覚室
本館５階の大ホールができるまで、駿台甲府高校で一番大きかった教室。特別授業などで利用しませんでしたか？　同窓生にとっては懐かしい教室です。もちろん、今でも現役で活躍しています。

旧校門
甲府工業高校前に新しい校門が出来て、これまでに校門が役目を終えました。しかし今でも、ひっそりと生徒たちを見守ってくれています、西側から。学校を訪れた際には、是非見に来てください。同窓生にとってのシンボルです。旧校門の横には、これも旧校門の横にあった「きんもくせい」を移植しました。

遠藤商店
直接高校とは関係ありませんが、同窓生にとっては、思いで深い「遠藤商店」が平成19年の年末に閉店しました。写真は建物を取り壊し更地となってしまったものです。跡地には「ローソン」ができました。時代の流れを感じます。

トイレ
新しい校舎、本館の新トイレと今も現役活動中の西館の旧トイレです。新トイレはホテル並みの綺麗な設備となっており、当然、自動洗浄です。同窓生の記憶にあるいわゆる学校のトイレとは趣が異なりますね。

進路指導室
西館４階にあった進路指導室は、本館１階に移転しました。生徒達の進路について柔軟に対応できるように資料が充実しております。後輩たちの進学実績が気になるところです。

～海外奮闘記～

同窓生の中でも海外でご活躍されている方は大勢いらっしゃると思います。今回は、単身イタリアに乗り込み奮闘されている17期生の柳澤政孝さんの奮闘記をご紹介いたします。

同窓生の皆様、こんにちは。私は中学第１期生、高校第17期生の柳澤と申します。今回の同窓会報発行にあたりまして、海外での奮闘記を会報に掲載したいとの御依頼がありましたので、私でお役に立てればと引き受けさせて頂いた次第です。

●イタリアでは何をしていますか？

私は現在、イタリア共和国ロンバルディア州ミラノ県ミラノ市に居を構え、当地にてジュエリーショップを展開するYanagisawa S.r.l.の代表取締役を務めております。昔から宝飾品を地場産業としてきた甲府市の出身で、私の実家も明治40年から現在に至るまでの約１世紀間、宝石・貴金属の製造卸業を営んでおります。

私は当初より、イタリア現地法人であるYanagisawa S.r.l.の経営再建の命を担ってこの地に赴いて参りました。そもそも、昨今の中間業界縮小傾向を危惧した両親が、製造型小売業へ事業転換を目的として当地に法人を設立した訳ですが、法人設立にあたりイタリアという国を選択したのには、製造卸である弊社が小売事業を国内で展開することに弊害があった点、又、宝飾品のルーツがルネサンス期のフィレンツェにあった点などが挙げられます。しかしながら進出を果した２００１年には、ＥＵ統合の影響からイタリアの物価は倍になってしまい、又、米国同時多発テロの影響からＥＵ各国のビザ発給が一時完全に停止。日本から派遣予定であった店舗責任者を当地に送り込むことすらできない状況に陥ってしまいました。この最悪とも言える状況が２年以上も続いてしまい、両親も現地からの撤退を考え始めた２００３年、翌年に大学卒業を控えた私に、再建へ向けて白羽の矢が立つこととなりました。

●イタリア語はどのように習得しましたか？

大学をフランス語学科で卒業しており、同じラテン語派生言語に４年間触れていた経験がありましたので、その経験がイタリア語の習得においても役立ちました。しかしながら移住時には全くイタリア語が話せませんでしたので、当初、午前中は語学学校、午後からは仕事という生活を送っておりました。ところがすぐに業務が多忙を極め、３ヶ月ほどで学校には行けなくなってしまいます。そこで、従業員に文法を聞きたり、友人とコミュニケーションを取ったりすることで語学を身に付けていきました。日本人は完璧に他言語を操れないことを恥ずかしいとすることが多く、多分に漏れず私もその１人なのですが、完璧に文法が確立されていないイタリア語は『話して覚える言語』だと感じ、今でも積極的にイタリア人と接することを心掛けています。

●メンタリティの面で日本との違いはありますか？

最も大きく違うのは家族の優先順位ではないでしょうか。食事や祝い事、外出などは家族と行動を共にすることが多く、又、家族と離れたくないが故に一人暮らしを断念することすらあるようです。一つの道を究めるべく、時に家族への負担も厭わずに黙々とストイックに邁進することを美徳とする日本人と、喜びも悲しみも家族や隣人と分かつことを美徳としてきたイタリア人の違い、ひいては武士道の日本人とキリスト教博愛主義のイタリア人の違いではないかと推測しています。

そういった文化のせいか、イタリア人は個としては弱く、責任を負うことを極端に嫌がるため、万物全てが遅く、全てがいい加減です。路面店などでは、店側とお客様の関係はイーブンだと思っており、お客様が神様などという考えは微塵もないようです。営業時間の終了と同時に客を追い出して営業を終了してしまうこともあったりします。誰しもが労働者の立場になった時には責任を負わず、全てをいい加減に処理しておきながら、一転立場が逆転して消費者の立場になった時には、途端にせっかちになり文句を口にする文化なのです。皆が一様に不満を抱えていながら結局何も改善されないのはイタリアの不思議といったところでしょうか。

●ビジネスの面で日本との違いはありますか？

多々ありますが、中でも特に信じられないのは労働者に対して過度に過保護な労働基準法です。イタリアではアルバイトという雇用形態がなく、全ての雇用が正社員としての労働契約になります。しかも一旦雇用契約を結ぶと、労働者が犯罪を犯さない限り、基本的に解雇はでき

ません。さらに、企業には労働者15人に対して1名の身体障害者雇用と、労働組合の発足が義務付けられています。労働組合が発足するとその代表者には取締役会への出席と発言が許され、組合の意向によってはストライキを敢行することも容易です。このためイタリア人経営者は自社の規模拡張を望みません。給料については1年間に14ヶ月分が保障され、必ず2ヶ月分のボーナスが出されます。又、21日間の連続休暇授与も必須項目で、産休は5ヶ月間与えねばならず、その間も給与は満額支払わなければなりません。違反した場合は会社や代表者が即刻処分されます。

ただし、被雇用者は安月給で一生昇給はなく、週に40時間までの労働しか認められていないので、どれだけ志があっても被雇用者の立場からは脱却できないのがイタリア社会の現状です。一見、政府が厳しい労働基準法で労働者を保護しているようにも見えますが、逆に向上心や野心を持つ労働者階級を淘汰するための社会システムであると言えなくもないのです。結局のところEUはいまだ階級社会であり、一部の特権階級の地位が脅かされないような社会構造になっていることを感じさせられます。

●休日はどのようなことをしていますか？

イタリアでは、勤務上、基本的に休日が日曜日しかないので、遠出することは殆どないのですが、昨年の春には従業員に無理を言って連休を取り、念願だったアルペンスキーの大会への出場を果たしました。今年も3月の連休で試合に参戦する予定でいます。海外生活はやはり苦労が絶えず、又、言葉の壁もいまだ完全には解消されませんが、それを理由に趣味や気分転換の機会を減らすことのないよう、日本で培ってきたものを継続していくよう心掛けています。

普段の休日には友人同士集まってフットサルをやったり、バスフィッシングに行ったりしています。勝手に日本代表を結成し、サッカーやフットサルの国別対抗戦に参加することもあります。イタリア在住ということで、サッカーの話題を問われる機会も少なくありませんが、皆さんが想像するほど一般イタリア人のサッカーレベルは高くありません。遠慮がちな日本人はパスを基本としてゲームを組み立てる反面、欧米各国のプレーヤーはまずドリブル、すぐさまシュートといったプレーが多く、全てが単発な印象です。かといって個々のレベルが抜群に高い訳ではないのでチームとしても脅威にはなり得ない、といったことでしょうか。ただ、勝ちに対する貪欲さは異常で、ラフプレーや舌戦は茶飯事です。日本人で構成されたチーム同士で対戦している場合、ラフプレーはプレーヤーの人格をも否定し兼ねないと思いますが、欧米人はその辺の区別がはっきりしていて、ピッチ上での出来事は試合が終われば完全に水に流されるようです。

●今後の目標は？

今後は、商材をジュエリーに限らない、トータルファッションブランドを構築していこうと考えています。２００１年から暗黒の数年間を彷徨ったイタリア現地法人でしたが、ようやく利益を生み出す企業へと成長させることができました。その次なる展開として今年からバッグやベルト、手袋といったファッションアイテムの取り扱いを開始します。これまでの甲府の物産を扱う会社から、世界中の物産を取り扱える会社へと飛躍させていければと考えており、その手始めがイタリアの物産である革製品のファッション小物という訳です。本年度初夏には日本市場へ向けたＷＥＢ販売ページが稼動予定で、ここでの手応え次第では東京への路面店出展、さらには、パリ、Ｎ・Ｙ、ロンドンといった世界の主要都市への波及も考えられるでしょう。この計画を一歩でも前に進めていくことが今後の目標です。

私は現在こうして海外に住んでいて、日本という国の秀逸性を感じる場面に遭遇することが多々あります。個人的な思いでは、そういった日本のシステムや日本人の感性、日本人のメンタリティなど、日本という国が世界でも通用し、むしろその中でも秀逸であることを強烈に証明したい気持ちがとても強く、その気持ちを満たしていきながらビジネスでの結果を出していければと思っております。

詳しい情報はこちら↓
ブログ　http://fio.naviglio.info/
本社ＨＰ　http://yanagisawa-srl.jp/index.html

同窓生の近況

4期生　佐野尚吾

同窓生の皆様、こんにちは。第4期の佐野尚吾です。

高校卒業時に同窓会役員に任命していただいてから既に23年も経ってしまいました。最近は自分の子供のような卒業生がいることにちょっと戸惑っています。

同窓会活動はこれまであまり活発ではなかったものの、毎年最低1回は甲府で他の役員と顔を合わせ同窓会活性化について忌憚のない意見を交わしてきました。昨年末完成したホームページもこのようなやり取りの中で生まれたものです。制作に携わった方々の想いが詰まったものですから是非有効活用して頂きたいと思っています。また同窓会を盛り上げていって下さる方を随時募集していますので興味のある方は是非ご連絡下さい。

簡単な自己紹介させていただきます。私は4年前に米国在住中にお世話になった大学院の教師を中心としてインターネットを利用した語学教育を行う株式会社ＭＧＡを起業しました。現在は英語、イタリア語、中国語の語学教育サービスを提供しています。また昨年より中国大連で来日予定の中国人研修生に対する日本語・日本文化教育や、現地企業と組んでの中国人に対する日本語教育、日本人向け賃貸マンション管理運営を開始しました。出版物やテレビアニメの翻訳事業なども行っております。語学が勉強したい、大連でホテルより安価なウィークリーマンションを探したいという方は是非ご連絡下さい。

6期生　淡路啓二

こんにちは、6期生の淡路啓二と申します。駿台甲府高等学校を卒業し早20年が経過しました。高校卒業までの18年間に比べ、卒業後この20年間はそれまでの5年間くらいにしか感じえませんでした。本当に1日1日の大切さを実感している毎日です。

最近では同窓会の会合で度々学校へお伺いする機会が増えましたが、私共が通っていた頃に比べ、学校も生徒もいい意味で高校らしくなったなあと感じております。生徒一人ひとりが「こんにちは」としっかりあいさつしてくれますし……。

さて、私は大学卒業後5年ほど長野県松本市、富山県富山市でＭＲ（医薬情報担当者）として製薬会社に勤務した後、山梨に戻りました。

現在は、家業である医薬品卸と調剤薬局そして介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）を営んでおります。

今年は診療報酬改定の年であり、当然のごとく薬価は下がり調剤報酬も下がることは確実で、卸業務も薬局業務も厳しくなることは間違いありません。また、施設経営も介護保険財政の逼迫により年々厳しい経営を強いられております。厳しい環境下にはありますが、人の生命に関連した「医療」・「福祉」に貢献できるよう努力をしていきたいと思っております。

また、最近感じることは、駿台甲府高等学校出身者が色々な分野で活躍されていることです。仕事上においても、日常の生活上においても「駿台」により助けられたことがしばしばありました。さらなる駿台甲府高等学校のネットワークを構築していくには、同窓会の活動は必要不可欠であると思います。

今後ますます同窓会活動が活発になることを心よりご祈念申し上げます。

微力ながら携っていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

編集後記

日一日ごとに春を感じさせられる今日この頃、皆様のご協力を得まして無事に同窓会報を発刊でましたことを感謝いたします。年末からの忙しい時期にもかかわらず、記事を寄稿していただいた方々、本当にありがとうございました。

思い起こせば数年前、大人のルール（？）を知らない大学生を捕まえて、会報作成の任を与えて頂いたのが現会長でした。めぐりめぐって今年、再度会報作成を行わせ頂けたことを喜び（？）に感じるとともに、少しずつではありますが毎年同窓会活動が進展していることを実感しております。

会報でも取り上げましたとおり、19年は母校の新校舎が完成しました。取材で訪れた際、その変貌ぶりに驚いたものです。旧北館が無くなりまして、見た目にも非常に開放感があります。また、誤解を恐れずに言えば、駿台生ってこんなに品が良かったかな？と思わせるくらい在校生が輝いて見えました。県外に出ている同窓生も甲府にお立寄りの際には是非ご覧になって頂きたいものです。

また、同窓会活動としては新しいホームページが作成されました。今後はその内容の充実が課題となります。タイムリーに同窓会の活動や、同窓生、母校の近況を発信し、まずは多くの同窓生に閲覧してもらえるようにいたします。その後は、ホームページ作成の趣旨である同窓生同士の世代を超えた交流の場として、皆様のツールになればと思います。

同窓生であるという一つの縁から、私を含め皆様のご活躍が広がれば幸いです。

（18期生　土橋）